

WSI 総会（2014 年 9 月 15 日～18 日）等の概要

中央職業能力開発協会

WSI 総会、戦略委員会（SC）、技術委員会（TC）等の重要議案の審議状況等について報告する。本報告の項目は日本にとって重要と思われる順に並べてあり、総会、戦略委員会、技術委員会の議題の順番にはなっていない。

1. 通訳の抽選制の導入 …TC 第 7 議案

以前から、一部の通訳は選手を技術的に指導しているのではないかと疑れ、トラブルも発生していた。今年の TC では、あらかじめ通訳をリストアップ（プール化）し、競技の 10 日前に抽選で通訳の担当する職種を指定するよう提案された。

TC の冒頭日本は以下の反対意見を述べた。

- 日本はこの提案に強く反対する。
- 独特の言語を有する国が 1 職種だけ通訳を使う場合、この制度は機能しないので、そもそも公平ではない。
- 仮にこの制度が導入された場合、通訳費用は高騰し、また通訳が期待通り機能しないおそれがあるという、2 つの深刻な影響が生じる。競技の専門性は深化する一方、例えば製造チームチャレンジから洋裁（ファッション・テクノロジー）に至るように、職種の多様性は広がっている。全ての職種に対応できる通訳は、能力が極めて高い者に限られる。数を確保する上でも、予算的にも厳しい困難になる。
- これは日本に限らず、新しく加盟する国々（注：非英語圏の途上国）にも深刻な影響を与えるであろう。
- 通訳に技術的な指導をさせないことが目的なら、通訳の要件を厳しくし、罰則を強化すべきである。
- 最後に、若い選手にとっては通訳をつかわなければならないだけで不利であることを、ご参集の各人にご理解いただければ幸いである。

その後、欧州の通訳を使用しない国々がむしろ中心となり、アジア諸国、新規加盟国から反対意見が相次いだ。

こうした反対を受け、事務局は提案内容を以下のように修正した。

- 2015 年サンパウロ大会において、一の職種系列（セクター）内に限って抽選制とする試行プロジェクトとして実施する。
- 抽選は競技 3 カ月前とする。

この修正案は圧倒的多数で可決された。

この採決の後、対象とする職種セクターの選定のため再度採決が行われ、過半数の支持により 2015 年サンパウロ大会では、アート・ファッション系（貴金属装身具、フラワー装飾、洋裁、グラフィックデザイン、ビジュアル販売促進）の職種間で、試行的に通訳の抽選が行われることとなった。

2. 年齢制限の引き上げ …TC 第 9 議案

2017 年のアブダビ大会から、年齢制限を 24 歳に引き上げるべきだとする提案である。従来から多くの国が主張してきたが、これまでは支持が広がらず実現されていない。

今回の提案理由は、多くの職種の競技内容は高度化しており、職業訓練施設だけではなく企業内での訓練を経て初めて対応できる競技内容となっている。オランダ等では 20 歳～21 歳で職業訓練施設を卒業し、それから企業で訓練を受ける。このため現行の年齢制限ではワールドクラスレベルに訓練出来ない、というもの。なおこの提案理由は、他の議案と異なり、WSI 事務局ではなく提案国のオランダから説明された。

この提案については、提案内容についての協議は行なわれず、事務局は最初から継続して検討すべきか否かについての採決を行った。この継続審議に係る事務局案は、過半数の国が支持した。

3. 曲げ板金職種の存続 …最終日の総会での報告

曲げ板金 (Sheet metal technology) は前回の参加国が 10 カ国で警告職種とされ、2015 年 8 月のサンパウロ大会への仮登録数が 12 カ国に達しなかった場合、競技規則に基づき、正式職種から除外される。2014 年 8 月の仮登録の締め切り時仮登録国は 11 カ国であった。

今回の会議では、TC 等での議論が無いまま最終日の総会での報告において、WSI 事務局技術部長から、前回の警告は間違いであったと報告された。

これにより、正式職種から除外されることはなくなったと思われるが、WSI 事務局が正式な決定通知を発出するまでの間、引き続き注意が必要である。

4. 役員選挙 …総会第 2 議案

2014 年は WSI 役員の任期 4 年の交代時期であるが、戦略委員会副議長を除き複数の立候補者がいなかった。

戦略委員会副議長は、豪州の Mr. Mark Callaghan と仏の Ms. Laurence Gates が立候補し、31 票対 14 票で Ms. Laurence が当選した。

○新体制

役職名	氏名	出身	備考
会長	Simon Bartly	英国	再任
特別問題担当副会長	San-Quei Lin	台湾	新任 2014 年まで SC 副議長
戦略担当副会長	Jos de Goey	NZ	再任
技術担当副会長	Stefan Praschl	オーストリア	再任
戦略委員会 (SC) 副議長	Laurence Gates	仏	新任 女性
技術委員会 (TC) 副議長	Michael Fung	香港	再任
財務局長	Terry Cooke	カナダ	再任

5. 詳細な採点基準へのアクセス制限 …TC 第8議案

従来から競技課題の公表と大会直前の30%の変更、採点基準の公開等が進められてきた。この結果、選手・エキスパートは採点基準のみを意識し、ロボットのように型にはまったパフォーマンスが求められるようになっている。

本来WSCでは技能者として多様な挑戦があるべきだが、現行ルールではこのような挑戦に対し寛容ではない。

こうした背景の下、詳細な採点基準は選手には示さず、概要だけを示すこととすることが可決された。エキスパートは詳細な採点基準が入手可能である。

6. 原材料のサンプル配布の廃止 …TC 第5議案

競技規則の「主催者は材料のサンプルを競技6ヶ月前に各メンバーに送付する。」については、コストと時間の制約により、削除することが決定された。これにより、今後は、材料のサンプルが提供されることは無くなる。他方、メーカー仕様書はPDFで大会の9ヶ月前(エキスパート登録期限と同じ時期)にWSIのウェブ・サイト上で公開されこととなる。

7. コミュニケーション・オフィサー …SC 第3議案

WSIのブランド管理強化のため、各国の加盟機関はコミュニケーション・オフィサーを指名し、WSI事務局に対し実態等を報告すること、SNS等での相互情報交換をすること、年間1回程度の同オフィサー会議に参加すること等が求められることになった。

8. 金・銀・銅1個ずつのメダル …総会WG

総会の会場ではなく、4つのグループに分けたワーキンググループ(WG)においてフリーディスカッションが行われた。

同一順位と判断する得点差について現行の2点以内、1点以内、0点の場合が提案されたが、この順番で付与されるメダルの総数が減少する。

日本は、参加選手が増加する中で、メダルの数が減少することは選手のモチベーションにとってマイナスであるため、現状のままとすることを主張。

さらに議論が進むと、同じメダルが複数の選手に与えられることへの違和感が多くの参加者から示された。これに対し日本は、日本の国内競技での経験として、主観的要素の採点はスポーツでタイムを計るようにより簡単ではないこと、結果、審査員の負担が大きくなることを主張。

日本が参加したWGの結論としては、評価戦略に基づき見直される採点システムの影響と併せて検討するべきとされ、その旨総会に報告された。

賞の対象を選手以外の関係者に拡大することについては、各WGでの議論等を踏まえ、事務局が新たなルールを示し、2017年大会からの採用に向け合意形成していくことが報告された。

9. 新たな職種の採用について …総会 WG

これも総会会場ではなく、4つのグループに分けたワーキンググループにおいてフリーディスカッションが行われた。

新たな職種は特定の地域に限らず全ての地域に共通するものでなければならないこと、加盟国が増加する中、新規職種採用ルール^(注)はどうあるべきかが議論された。

(注) 現行ルールは、デモンストレーション職種として6カ国以上→正式職種1年目8カ国、2年目10カ国、3年目以降12カ国以上の参加が必要というもの
なお数字ではなく割合(参加国数の15%など)が良いとの提案があった。

総会では、各WGでの議論等を踏まえ、事務局が新たなルールを示し、2017年大会からの採用に向け合意形成していくことが報告された。

10. 地域大会について …総会 WG

総会ワーキンググループにおいてフリーディスカッションが行われた。

すでにEuro Skills、World Skills GCC(中東湾岸諸国) Skills、World Skills America、World Skills ASEANがWorldSkillsの名の下に地域大会として開催されている。大会のレベルは国内大会と世界大会の中間に位置づけること、人材育成のステップとして利用すること、地域大会のスポンサーについては、世界大会のスポンサーについてはWorldSkillsを通じて依頼すること、WSCには無く地域大会のみの職種があっても良いこと、などが議論された。

11. 2019年大会 …総会

ロシア(カザン)、フランス(パリ)、ベルギー(シャルルロワ)、南アフリカの4カ国(都市)が開催の希望を表明した。今後、2015年8月のサンパウロ大会での総会でプレゼン・投票が行われ、開催国が決定する。

12. 2016年総会

2015年サンパウロ大会と2017年アブダビ大会の間(裏年)に当たる2016年の総会は、米国とカナダが共催し、国境を跨ぐナイアガラでの開催が決定した。